

林業の新しい作業システムの現地検討会を開催

令和5年8月7日
林野庁
関東森林管理局
下越森林管理署

林業の低コスト化を目指して、伐採から植栽までの作業を連続して行う新しい作業システムなどの現地検討会を開催しました。

1. 概要

下越森林管理署では、事業の低コスト化を図るために、伐採、造材、搬出、地拵え、植栽までの作業を連続して行う一貫作業システムの導入を進めています。一貫作業では、作業の効率化によりコストの削減が可能となり、結果として、高コストが課題となっている林業の現状を改善することが可能となる取組です。

また、同現地では、列状間伐も実施しています。列状間伐は、一定間隔で直線的に伐採する方法で、間伐木の選木労力の軽減や、伐倒の際、かかり木になりにくく、安全な作業が行えること、伐採列に沿った集材が容易になること、また、作業を機械化して効率良く行えるといったことが可能になります。

これらの取組みの理解・普及を目的に、実際の作業状況を現地で確認していただき、様々なご意見をいただく機会として、令和5年7月27日（木）に新潟県東蒲原郡阿賀町古岐字古岐山国有林内において現地検討会を開催したので御紹介いたします。

2. 当日の参加者

当日は、猛暑の中での開催となりましたが、新潟県から12名、県内各市から6名、森林組合から5名、林業事業体等から16名、森林管理局から2名、県内各森林管理（支）署から26名の計67名参加していただきました。（写真①）

3. 実施内容

一貫作業工程の内、集材に使用したグラップルを機械地拵えに使用している作業の実演と、列状間伐箇所において、立木の伐採からグラップルによる集材、プロセッサによる造材、フォワーダによる運材までの作業の実演を見学していただきました。

（写真②、③、④）

質問タイムでは、一貫作業システムによる発注コストの低減や、受注者から見たメリットの話（発注ロットが一定量あれば、それぞれの作業の進捗に応じて、作業スケジュールの変更指示が可能）のほか、機械地拵え時の伐根処理方法や、森林作業道の作設について意見交換がありました。



①参加者への概要説明



②グラップルによる機械地拵えの実演



③プロセッサによる造材とグラップル集材



④林業機械による連続作業状況
(プロセッサ造材→グラップル集材→フォワーダ運材)

360度カメラによる映像もあります。
(下記URLよりアクセスしてください)

<https://r07263881.theta360.biz/s/0a9688a8-325c-11ee-aa3d-0ad00fde431f-1>
「プロセッサ造材の様子」



スマホで見たい方は右のQRコードを読みとってください。



4. 今後の展望

今回の現地検討会を契機として、新潟県内における民有林においても、一貫作業システムと、列状間伐導入のきっかけになればと考えています。国有林においては、コストの削減や事業の効率化を図るため、この取組みを継続して実施していくとともに、民有林への普及に繋げて参ります。

お問い合わせ先

関東森林管理局 下越森林管理署 森林技術指導官 堀内 稔弘

〒957-0052 新潟県新発田市大手町4丁目4-15

TEL:0254-22-4146 fax:0254-22-4148 Mail: ks_kaetsu_postmaster@maff.go.jp